

# 学校だより

積小為大

校長 関川紀美子

地域の相馬様からご指導をいただきながら5年生の子どもたちが育てた学校田の刈り取りが9月に終わりました。今年は昨年度に比べ豊作とのこと。5年生が田んぼの様子を交代で観察したり、相馬様からは様々な面で細やかに教え支えていただいたりと、これまでの地道な取組が実を結んだことに心から嬉しく思います。

さて、松浦小学校の玄関前に二宮尊徳の立像があります。毎日子どもたちの登下校を見守ってくれています。

二宮尊徳は、幼いころは金次郎と呼ばれていました。14歳で父親を亡くし、16歳で母親を亡くし、その後兄弟（三兄弟）とともにそれぞれが親戚の家に預けられました。金次郎は、預けられた親戚で農業の仕事を手伝ったそうです。ある日、金次郎は田植えが終わった田んぼを見た時、捨てられている残った苗の束を見つけました。金次郎はその苗の束をもらい受け、荒れた土地を耕し、その苗を植えたそうです。やがて、その年の秋には、少ないながらもお米を収穫することができました。いらない苗としてそのまま捨てられていれば、お米として収穫できません。金次郎の目の付けどころやその後の行動において、金次郎はすばらしい人間として尊ばれ続けています。

金次郎のように、小さなことを実践して大きな収穫を得ることを「積小為大」（小を積んで大を為す）といいます。

二学期に入り、1か月が過ぎました。9月26日には、校内持久走記録会がありました。延期になったにもかかわらず保護者や地域の皆様からたくさん応援にご来校いただきました。ありがとうございました。お陰さまで、たくさん子どもたちが自分の記録に挑戦し、精一杯最後まであきらめずに走ることができました。

子どもたちは持久走記録会をめざし、心と体の体力をつけることや自分のめあてに向かって粘り強く取り組むことをめあてに体育の時間や20分休み、放課後、学校に来る前に等、毎日のように地道な努力を重ねていました。地味で根気のいることです。

小さな努力を積み重ねていくことでやがて実を結ぶことを信じて行動できるように、今月も学校生活の様々な場面において、子どもたちに声をかけ励ましていきます。ご家庭でもお子様を支えていただきますよう、よろしく願いいたします。